

摂食嚥下サポートチーム立ち上げに際して

超高齢化社会を迎えた日本においては、肺炎の死亡率が脳血管疾患を抜いて第3位となっています。特に高齢者では摂食・嚥下機能の低下を原因とする誤嚥性肺炎が問題視されていますが、「食べること」は患者やその家族にとって、喜びや生きる希望に繋がることは言うまでもありません。このような状況の中で、これまで本院の摂食嚥下機能評価は耳鼻科医が担当していましたが、医師の交代などで適切なチーム医療が機能していませんでした。

そこで昨年6月に摂食嚥下リハビリテーションの第一人者でもある、昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科の高橋浩二教授監修のもと、摂食嚥下障害を有している患者の抽出方法や、機能評価、摂食嚥下リハビリテーションのプランニングなどを指導して頂き、本年4月に本チームが稼働しました。その背景には、本院の医師、看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士、管理栄養士、理学療法士をはじめとする多職種の方々が活発に意見を出し合ったり、6月には各病棟から摂食嚥下リンクナースが選出されたことも大きいです。

現在摂食嚥下チームは、昭和大学口腔リハビリテーション科より原田由香歯科医師を招いて活動しています。

本チームの役割として、摂食嚥下障害の原因となる疾患や病態を把握したうえで嚥下機能評価を行い、治る嚥下障害には適切なリハビリを行い、治らない嚥下障害には今ある機能を最大限に生かし、口から食べる幸せを支援することが求められます。また、胃瘻造設前には摂食嚥下評価を施行し、再評価することを推奨しています。患者・家族が何を望み、患者自身にとって何が最善かを確認し、周術期管理や在宅支援など、地域包括ケアの一環として役割を果たしていきたいです。

(歯科口腔外科 大橋)



摂食嚥下サポートチームの活動内容

嚥下機能が低下している患者に対し「食べたい」というニーズを安全に表現し、食べるということを通して、患者QOLの維持・向上や患者の人生観を尊重した療養の実現に寄与することをミッションとして今年度からのスタートしました。

入院した患者の嚥下スクリーニングを行い、STによる専門的評価を実施し介入をしています。

月1回、摂食嚥下サポートチーム会議を行って、リンクナースから対象患者の報告をし、原田歯科医師から回診のフィードバックをうけています。また、各病棟の嚥下障害のある患者の口腔ケア方法などの情報共有も行っています。

今後は摂食嚥下サポートチームのメンバーを対象に毎月勉強会を開催する予定です。

これからも患者や家族を含め、「食べたい」という気持ちをサポートできるようにチームとして援助していきたいと思っています。

(5階 海鋒)

NST勉強会のご案内

9月29日(金) 17:30~大塚ライブオンニュートリションセミナーを開催します。テーマは「急性期から始める地域包括経腸栄養ケアの実践」(目白第二病院 副院長 水野英彰先生)です。参加を希望される方は栄養管理室(1072)までご連絡ください。

(会場は7階リハビリテーションホールの予定です。)



pista.jp - 20899768

グルセルナがバッグタイプに切り替わります

本院でも採用している糖尿病用経腸栄養剤のグルセルナ REXバッグタイプが発売になりました。缶タイプのグルセルナExから切り替えになります。重症患者や外科周術期において血糖管理するうえでの有用性も報告されています。

グルセルナREX特徴

- ・糖質を制限した配合比率
- ・難消化性デキストリン、フラクトオリゴ糖配合
- ・カルニチン、イノシトール配合

(栄養管理室 安保)

グルセルナREXの栄養素配合比率

